

弥富市洪水ハザードマップ

早めの避難をしましょう! 命を守る行動の決断はあなたしかできない!

マップの使い方 洪水ハザードマップは、水防法に基づき河川管理者(国又県)が作成した洪水浸水想定区域図を河川毎に表示したものです。

- ① 自宅や職場付近の浸水深を事前に確認ください。
- ② 垂直避難が適さない場合は、早めの避難(水平避難)を心がけてください。

予測される浸水の深さ

ご自宅の浸水の深さを確認しましょう。

5.0m以上	浸水深	浸水程度の目安
3.0m~5.0m未滿	5.0m以上	2階水没
1.0m~3.0m未滿	3.0m以上	2階床上浸水
0.3m~1.0m未滿	1.0m	1階床上浸水
0.3m未滿	0.3m~0.5m未滿	床下浸水

風水害の警戒レベルと避難行動

災害発生危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようするため、避難に関する情報や防災気象情報等の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて発表されます。

- ⑤ **緊急安全確保**※1 命を守る最善の行動! 警戒レベル4までに必ず避難!
- ④ **避難指示**※2 危険な場所から全員避難
- ③ **高齢者等避難**※3 危険な場所から高齢者は避難
- ② **大雨・洪水・高潮注意報**(気象庁) 自らの避難行動を確認
- ① **早期注意情報**(気象庁) 災害への心構えを高める

※1 市町村が災害の状況を把握し、的確に避難行動ができるよう、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者以外の人にも必要に応じて段階の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



河川の危険を知る情報

雨が降り続けているときは、近くを流れる河川の水位情報や洪水予報も参考にしましょう。

はん濫危険水位	いつ河川がはん濫してもおかしくない状態	はん濫発生情報
避難判断水位	一定時間後にははん濫する危険がある状態	はん濫危険情報
はん濫注意水位	水位の上昇が見込まれ、はん濫の発生を注意する状態	はん濫警戒情報
水防団待機水位	水防団が水防活動の準備を始める状態	はん濫注意情報
平常	どの基準水位にも達していない状態	

河川ごとの洪水予報と避難行動 気象庁は、あらかじめ指定した河川の水位や流量から「指定河川洪水情報」を発表します。水防活動や避難行動を判断する際の参考にしてください。

- はん濫発生情報 はん濫が発生。避難が遅れて浸水したら、自宅や近くの安全な建物の2階以上に避難しましょう。
- はん濫危険情報 はん濫危険水位に到達。避難行動を行い、身の安全を確認してください。
- はん濫警戒情報 避難判断水位に到達。さらに上昇する危険があるため、早めに避難準備をしましょう。
- はん濫注意情報 はん濫注意水位に到達。今後、河川の水位上昇が見込まれるため、注意が必要です。



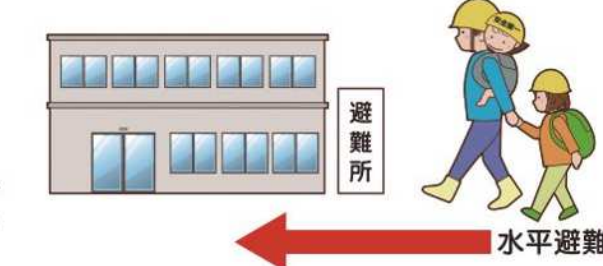
大雨のときはこんな点に注意しよう

避難の考え方

避難とは「災害を避ける」ことであり、場合によっては避難場所には行かず、今いる場所にとどまることが避難になることもあります。避難場所への避難を原則としながら切羽詰まった状況であれば、垂直避難や屋内避難も有効な避難方法です。

安全な場所へ避難(水平避難)

(避難所、親戚の家など) 全ての避難所を開設するわけではありません。避難する前にどの避難所が開設されているか、ホームページ等で確認してください。また、避難所へ行くだけが避難ではありません。避難所以外に被害が及ばない「親戚宅、知人宅への避難」、「安全な場所での車中避難(車中泊)」なども検討してください。



頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難(垂直避難)

(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



建物内の安全な場所で待機(屋内退避)

(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



安全な経路で避難しよう

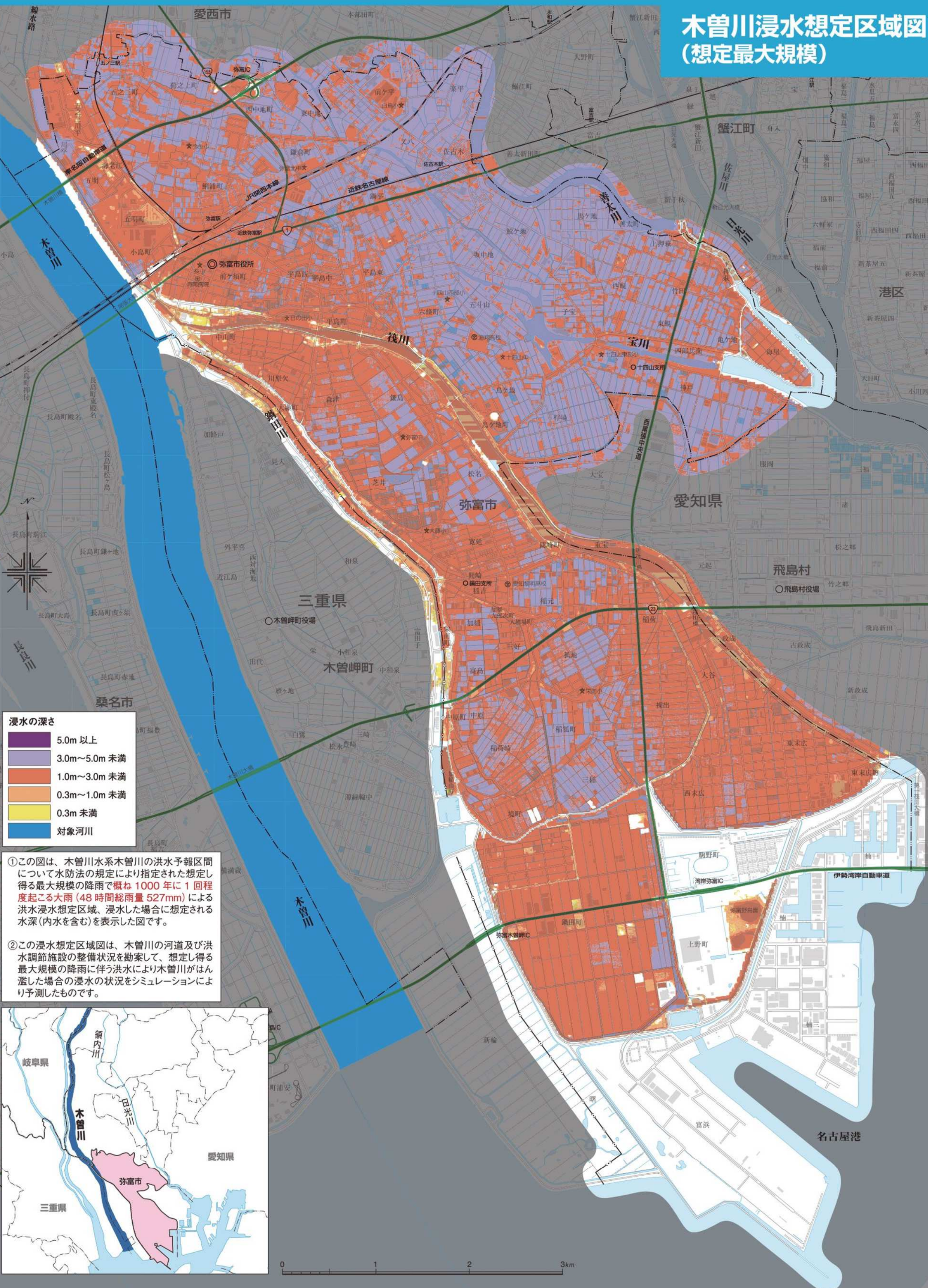
河川・水路沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、十分に注意しましょう。

隣近所へ声をかけ合おう

高齢者、障がいのある方、乳幼児などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要です。洪水時は地域の皆さんで協力して安全に避難しましょう。



木曽川浸水想定区域図(想定最大規模)

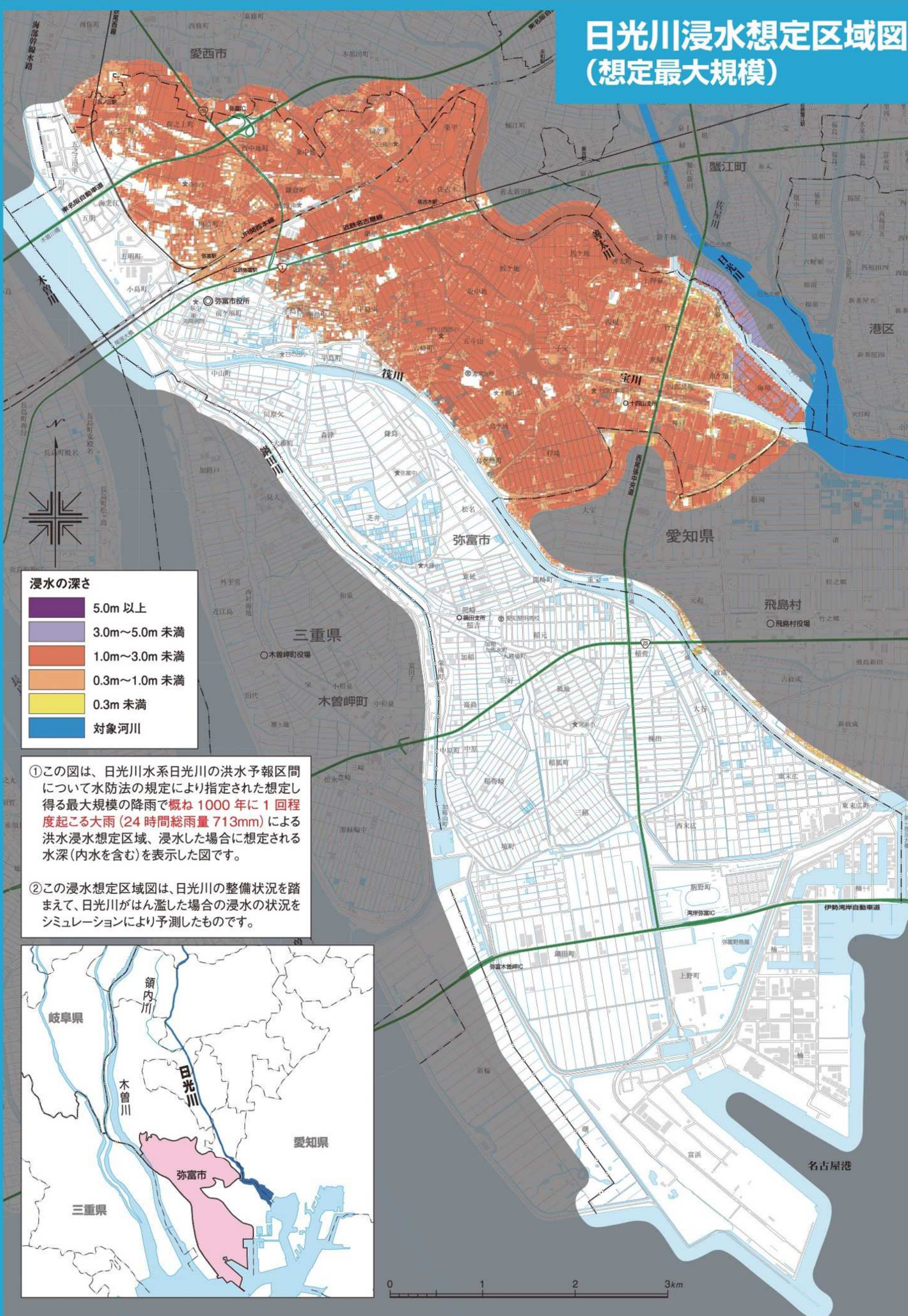


雨量の目安(1時間雨量)

10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
<ul style="list-style-type: none"> ・ザーザーと降る ・地面一面に水たまりができ、地面からの跳ね返りで足元がぬれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂降り ・傘をさしてもぬれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツをひっくりかえしたように降る ・道路が川のようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) ・傘は全く役に立たなくなる ・水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる ・大規模な災害が発生する可能性が高く、厳重な警戒が必要

※大雨などで危険を感じたら早めに避難をするように心がけましょう。

日光川浸水想定区域図(想定最大規模)



領内川浸水想定区域図(想定最大規模)

